

地域で子どもの将来を考え、学校を支える支援体制づくり

学 校 名	白川町立佐見小学校	対象学年	中・高学年
支援活動内容	佐見獅子舞・佐見子ども歌舞伎		

学校の願い

本校は、山間部の豊かな自然に囲まれた小規模校である。小規模校の特性を生かし、児童一人一人の状況を的確に把握し、指導に役立てている。

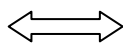
また、地域や家庭においては、学校の教育活動に対して好意的に受けとめ協力的である。このような環境の中で、児童は現状の生活に満足してしまい、向上心にやや欠けている。

また、指示されたことは確実に行うが、自ら考え判断し行動する力が弱い（右図参照）。

このようなことから、本校では、自ら考え判断し、自信をもって取り組む子の育成を急務としている。そこで、教育活動の様々な場面で「自ら考え行動しなければいけない体験活動」を仕組むことで、「ぼく、わたしにもできる」という自信をもたせたいと考えた。

地域の中の佐見小学校			
	地域 家庭	自然 文化	児童
強み	協力的 好意的 三世帯家族 連携	豊かな四季 身近な山と川 伝統の継承	素直 親切 物怖じしない
弱み	高齢化 やや閉鎖的 保守的 児童数の減少 空洞化	安全面の配慮 後継者不足	競争意識 努力・継続力 思考・判断力 感化されやすい

コーディネーターの関わり方



活動内容

地域には「佐見の子どもの将来を考える会」がある。佐見自治協議会が事務局となり、年に3回程度開催している。この会の目的は、地域も一体となって学校をサポートすることで、将来の佐見を担う子どもを育成することである。幸い、「佐見の子どもの将来を考える会」とつながりのある保護者が窓口となり、直接学校（教頭）から支援をお願いしている。

本年度は、会の中で右図のような活動内容の支援を校長が説明し、特に佐見獅子舞の協力と、佐見歌舞伎への児童参加の在り方を依頼し理解を得た。

中でも佐見獅子舞は、昨年度より取り組みはじめた手探りの活動であったため、児童とつながりのある地域の指導者を依頼した。また、二年に一度開催される地域の歌舞伎公演に、本年度より児童も参加することで、佐見の伝統を引継ぎ、守っていく役割を果たすことになった。



成果と課題

- 地域の会と連携を図りながら、自ら考え判断し行動する体験活動を仕組むことで、児童に自信をもたせることができた。
- 学校の願いや活動内容等を会の方へ提案するための資料準備をはじめ、指導者等との打合せ等、学校の窓口を一本化し進めなければいけない。早い段階から計画・準備が必要である。



【地域の指導者による獅子舞練習：第3学年】